

# 国 語 科

羽場邦子・竹森文美・谷 栄次・浜岡恵子

## I 研究の経緯

### 1 昨年度までの研究

今回の学習指導要領改訂により、小学校でも中学校でも「伝統的な言語文化」が重視され、教科書には多くの古文や短歌・俳句、漢文が内容として取り上げられている。しかし、俳句や短歌の作品が多くの学年にあったり、小学校高学年と中学校で作品の重なりが見られたりとその系統性が曖昧になっている。

そこで、まず、「伝統的な言語文化」の学習をした児童・生徒は、どのような変容が期待されるのかを整理する必要があると考えた。その際、教材の特徴、教材と向き合う児童・生徒の姿も含めてⅠ～Ⅲ期に分けて整理し、小・中の学びをどのようにつなげていくのかを検討してきた。それが表1である。

表1 「伝統的な言語文化」に関する小・中9年間の学びのつながり

| Ⅰ期                                                                                                                                         |      | Ⅱ期                       |    | Ⅲ期                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------|----|------------------------------|
| 小1・2                                                                                                                                       | 小3・4 | 小5・6                     | 中1 | 中2・3                         |
| 具体的でイメージしやすいもの                                                                                                                             |      | 作品世界                     |    | 抽象的で背景となる知識が必要なもの            |
| 複数の作品にふれて楽しむ                                                                                                                               |      | 複数の作品を比較する               |    | 一つの作品を深める                    |
| ↓                                                                                                                                          |      | ↓                        |    | ↓                            |
| 生活経験や具体的な事象との<br>関連の重視                                                                                                                     |      | 先人のものの見方や考え方との<br>比較の重視  |    | 歴史的背景や生活状況、生き方や<br>価値観の重視    |
| ↓                                                                                                                                          |      | ↓                        |    | ↓                            |
| 出会い、楽しむ<br>ー内容の面白さを実感するー                                                                                                                   |      | 興味・関心を広げる<br>ー魅力や価値に気づくー |    | ふれる機会を自ら求める<br>ー魅力や価値を掘り下げるー |
| 自由 <span>自由に想像する</span> <span>→</span> <span>(根拠をもって推論・想像する)</span> <span>→</span> <span>豊かに想像する</span> <span>→</span> <span>深く想像する</span> |      |                          |    |                              |
| 「伝統的な言語文化への親しみ」のレベル                                                                                                                        |      |                          |    |                              |
| 「こんなものがあるんだ」 <span>⇒</span> 「おもしろいな」 <span>⇒</span> 「もっと読みたい」 <span>⇒</span> 「くわしく知りたい」                                                    |      |                          |    |                              |

1年次は、児童・生徒の発達段階を考慮に入れながら授業観の違いを浮き彫りにすることをねらい、俳句に絞って授業研究を行った。学年が下がるほど実物や写真、絵本など視覚的にとらえさせることが効果があること、学年が上がるほど、一文字の違いによる意味の違い、微妙なニュアンスの違いなど言葉の深みへの追求が可能になることなどが明らかとなった。俳句を鑑賞するには、根拠となる言葉を手がかりに他の言葉と関係づけたり、既存の知識と結びつけたりする思考力・想像力が重要になる。そこに生まれる考えや思いのずれ・差異が児童・生徒の関心をさらに高めることにつながっていく。また俳句の創作や鑑賞文を書くなどの表現活動を取り入れることが親しみのレベルの変容に効果的であることもわかった。

2年次は、俳句に限らず多様な「伝統的な言語文化」の授業研究を行った。1年次の取り組みを生かして児童・生徒の表現活動を重視することにした。昔話の再話、ことわざ・故事成語の短文づくり、落語の実演、短歌での作者なりきり作文などがそれにあたる。表現活動を位置づけることで、どの学年においても「伝統的な言語文化」のもっている価値を自己の内面に取り込み、くぐらせる貴重な場となっ

た。また、そうした活動は児童・生徒の現実の生活感や生き方とかかわらせることに直結し、俳句と同様、親しみのレベルの変容に効果をもたらすことが明らかになった。

「伝統的な言語文化」には、今を生きる児童・生徒があまり見聞きしない独特の言い回しや表現、その時代に生きていた人の考え方や価値観が存在している。それらを思考力・想像力を働かせて児童・生徒に新たな発見として気づかせたり、表現活動と結びつけながら現実の生活感や生き方とかかわらせたりすることで、「伝統的な言語文化」に親しむ態度が培われていくことが分かってきた。

3年次は、学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の中の「漢字文化」に焦点をあて、小・中学校の学びがつながる授業のあり方を探っていった。ここでいう「漢字文化」とは、言葉の働きや特徴、語句に関する事項、漢字の読み書きや使い方といった文字文化としての漢字も含み、それら全てを「漢字文化」とし、「伝統的な言語文化」の一つとしてとらえた。Ⅰ期では「めざせ！かん字はかせーよんでみようー」（小学校1年）、「めざせ！かん字はかせー書き分けはできるかなー」（小学校2年）、「漢字のひみつー形・音・意味ー」（小学校3年）、Ⅱ期では「時代を超えて心にひびく？『論語』のメッセージ」（小学校5・6年）、Ⅲ期では「漢和辞典でひらく漢詩の世界」（中学校3年）の授業実践を行った。どの学年段階においても、根拠をもって推論・想像する活動を通して意欲的に学習内容に迫ることができること、表現する活動を通して学習内容を再構築し、交流する中で内容がより確かになることが明らかとなった。

#### Ⅰ期（小学校1年）

児童全員、同じ漢字の音読み・訓読み、成り立ち、言葉や文を調べ、クイズを作った。クイズ作りは、読み方の違いや意味を理解するのに有効だった。1年生が獲得している語彙では、言葉や文作りをするのが難しい漢字もあったため、教師の助言が必要である。どの読み方なのかと推論しながらクイズの答えを見つける活動は、児童の漢字への興味・関心を高めた。学習後のアンケートでは、漢字の成り立ちや漢字辞典に興味・関心をもつ児童が増えていた。また、日常で意欲的に漢字辞典を使うようになった。

#### （小学校2年）

児童全員、同じ読み方をする漢字の成り立ち、言葉を集め、クイズを作った。クイズ作りは、漢字の意味を理解するのに有効だった。児童は、漢字の成り立ちから意味を考えた。また、どの漢字なのかと推論しながらクイズの答え見つける活動は児童の漢字への興味・関心を高めた。学習後のアンケートでは、成り立ちや熟語に興味・関心をもち漢字辞典で調べたことが分かった。1年生のためにクイズのヒントを考えたり、1年生に漢字辞典の使い方を教えたりする上学年らしい姿が見られた。

#### （小学校3年）

未学習の漢字をたくさん扱ってしまったことで、難しいと感じた児童が数名いた。しかしながら、漢字学習の中でクイズから学習を始めたことで、推論することを楽しみながら学ぶ機会となっていた。その後、学んだことを生かしてクイズなどで表現したことは、意欲向上に有効的であったと思われる。漢字辞典を使って調べる際、ふっと書かれてある内容に目を向け、漢字のことについて分かる面白さを味わっている様子も伺えた。

#### Ⅱ期（小学校5・6年）

単元末の児童のふり返しから、全員が学習に対して「おもしろい」と応えている。これは、学習の中に、漢字の意味や成り立ちの比較から文の意味を推論する「なぜ解き」が含まれていたことに要因があった。また、先人の教えが今の自分に役立つ驚きや感動が得られることももう一つの要因となった。辞典を使ってわからない漢字を調べる活動や漢字だけで表現する活動を通して、生活経験と結びつけた解釈をしたり適切な漢字を探し選択しながら使用したりするなど、漢字の奥深さに気づく記述も見られた。

#### Ⅲ期（中学校3年）

漢和辞典を用いて作者の描いた風景や心情を推論していくという学習の過程で、辞典を引くことで得る発見を楽しいと感じ、活用に自信を得たことが事後アンケートよりわかった。また、漢文訓読の応用

問題において、正答の数は大きく増えていないが、無解答の数は減っており、学習への取り組みの様子に変化がみられた。これらの結果から、今回の指導は漢文学習への興味・意欲を高めるために有意にはたらいたと言える。

## 2 今年度の取り組み

昨年度に引き続き、小・中の学びがつながる「漢字文化の創造」をめざした授業づくりをテーマに研究を進めていく。

今年度は、まず、昨年度作成した「漢字に関わる学習内容」を見直した(図1)。それを踏まえて「漢字文化」に関する学習内容を学年別に整理し、系統性が見えるように「漢字文化に関する到達目標」(表2)に示した。

教科書に扱われている漢字に関わる学習内容を整理したものが図1である。大きく「文字としての漢字」、「熟語としての漢字」、「文化としての漢字」の3つに分類した。

漢字学習では、小学校6年間で常用漢字の1006文字を、中学校3年間で常用漢字の大体を習得することが求められ、そのために覚えることが目的化した機械的・訓練的・反復的な指導に偏りがちである。そこで、児童・生徒が「漢字文化」に関心をもち、楽しみながら漢字にふれる機会を増やしていくことをもっと重視したい。そして、学習する中で漢字のきまりや価値、そのおもしろさや奥深さに気づき、実感できるように、計画的・段階的・螺旋的な指導をしていくことを大切にする。こうした学習経験を豊かにしていくことが、「漢字文化」に親しむ児童・生徒の育成につながっていくと考えている。

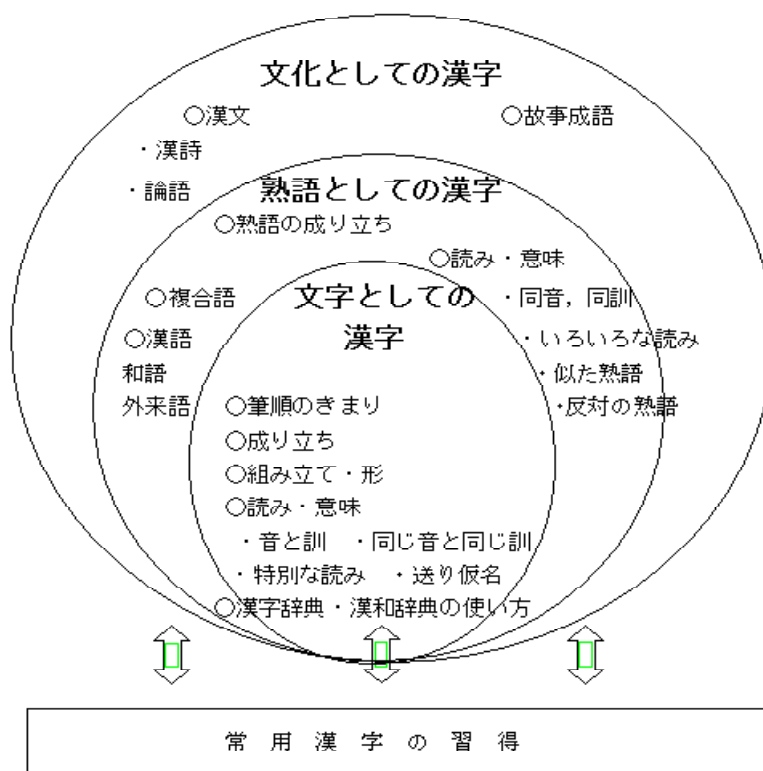


図1 漢字に関わる学習内容



### 3 中学校卒業時のめざす生徒像に向けた授業仮説

「伝統的な言語文化」に親しむ姿として中学校卒業時の生徒像を次に示す。

作品に関わる歴史的背景をふまえた深い読みを実現したり、関連する伝統的な言語文化にふれたりすることによって、古典にふれる機会を自ら求めようとする生徒。

上記の目指す生徒像に向けて、以下の授業仮説を設定した。

#### 【Ⅰ期】

仮名や漢字を習得して語彙を増やしたり、さまざまなジャンルの文章と出会ったりする場を教師がつくることで、児童が漢字を身近に感じ、漢字文化を楽しむことができるであろう。

#### 【Ⅱ期】

日常生活において使用できる漢字の数を増やしたり、言葉の意味や構成、語感の違いなどを意識したりする場を教師が工夫することで、児童・生徒が漢字のもつ奥深さに気づくことができるであろう。

また、時間や空間を隔て受け継がれる古典の言葉を通して、昔の人のものの見方や考え方を知ることによって、「漢字文化」への興味・関心をもつことができるであろう。

#### 【Ⅲ期】

社会生活において必要とされる常用漢字を習得したり、語感を磨き、語彙を豊かにしたりする場を多くつくることで、生徒が漢字の特質を理解し、自らの表現に活用することができるであろう。

また、漢文を読むことを通して、歴史的背景や生活状況、生き方や価値観を知ることによって、「漢字文化」をより深く理解し、親しむことができるであろう。

## Ⅱ 本年度の研究計画

### 1 研究の目的

昨年度の実践から見えてきたⅠ期～Ⅲ期の学びのつながりを意識した授業実践を行う。漢字を題材にし表現活動を中心においた授業のあり方を探っていく。

### 2 研究の方法

(1) 学習指導要領及び教科書の内容から各学年における漢字の到達目標や学習内容を整理する。

(2) 以下の授業を実施し、授業仮説を検証する。

#### ①Ⅰ期（小学校1学年） 単元名「めざせ！かん字はかせーからだをつかってー」

【授業仮説】漢字を体で表現し、漢字の成り立ちや意味を知るならば、漢字を身近に感じて興味・関心を持ち、漢字の文化を楽しむことができるであろう。

【単元計画】第1時 活動目標と単元全体の学習内容を知る。

第2・3時 漢字を体で表現しクイズを作る。1・2年でクイズを出し合う。

【検証方法】・学習前と学習後における漢字への興味・関心の変容を見取る。

・体で漢字を表現する様子、クイズのヒントの分析をする。

#### ②Ⅰ期（小学校2学年） 単元名「めざせ！かん字はかせーとなえことばー」

【授業仮説】漢字を唱え言葉で表現し、漢字の成り立ちや意味を知るならば、漢字を身近に感じて興味・関心を持ち、漢字の文化を楽しむことができるであろう。

【単元計画】第1時 活動目標と単元全体の学習内容を知る。

第2・3時 漢字を体で表現しクイズを作る。1・2年でクイズを出し合う。

【検証方法】・学習前と学習後における漢字への興味・関心の変容を見取る。

・唱え言葉で漢字を表現する様子、クイズのヒントの分析をする。

### ③Ⅰ期（小学校4学年） 単元名「どっちの漢字？」－同訓異字－

【授業仮説】同訓異字のクイズをし、漢字の意味や成り立ちが分かれば、漢字の使い分けができるようになり、漢字に対する興味がもてるようになるだろう。

【単元計画】第1時 同訓異字の漢字と意味や成り立ちを結び付けるクイズを楽しむ。

第2時 同訓異字の意味の違いを考えて使い分けクイズを楽しむ

【検証方法】・事前、事後の児童の意識調査により、漢字に対する意欲の変容を見取る。

・同訓異字の使い分けテストの分析をする。

### ④Ⅱ期（小学校5学年） 単元名「漢字だけで表現しよう！」

【授業仮説】漢字だけで表現する活動を通して、先人の見方や考え方にふれたり、創作作品のおもしろさに気づいたりすれば、児童は漢字や漢字文化に進んでかかわろうとするであろう。

【単元計画】第一次 漢字だけで表現しよう。

・漢字だけで言葉（外来語）を表現する。漢字だけで筆談する。学級の憲法をつくる。

第二次 「漢詩」を読もう、「漢詩」をつくろう。

・漢詩「静夜思」を読む。個人で漢詩をつくる。グループで漢詩をつくる。

【検証方法】・漢字だけで表現した創作作品を見取る。

・学習のふりかえりの記述を分析する。

・事前アンケート、プレテストと事後アンケート、ポストテストの比較をする。

### ⑤Ⅲ期（中学校3学年） 単元名「漢詩を読む、漢詩を詠む」

【授業仮説】日本語を表現する文字として既に獲得した「漢字」を、漢語として、語の構成や意味をとらえ直す学習を設定することにより、詩の情景や理解に役立てることができるだろう。

【単元計画】第一次 熟語の構成、漢文訓読のきまりを学ぼう。

第二次 「漢詩」を読み味わおう。

【検証方法】・漢字及び漢文学習に対する意識調査を授業実践の前後に行い、結果を比較検証する。

・漢文訓読のきまりや漢詩の技法をふまえた表現ができているかを分析する。

#### 【参考文献】

文部科学省、『小学校学習指導要領解説 国語編』，2008.

文部科学省、『中学校学習指導要領解説 国語編』，2008.

文化審議会答申、『これからの時代に求められる国語力について』，2004.

全国大学国語教育学会編、『国語科教育学研究の成果と展望』，明治図書，2002.

田近洵一・井上尚美編、『新訂 国語教育指導用語辞典』，教育出版，1984.

難波博孝・東広島市立原小学校、『伝統的な言語文化の授業づくり』，明治図書，2009.

日本言語技術教育学会、『言語技術教育19 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは』，明治図書，2010.

表2 漢字文化に関わる到達目標

|    |      | 文字として                                                |                                          |                                                              |                                            | 熟語として                               |                                                            |                                        | 文化として                           |                                             |
|----|------|------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------|
|    |      | 筆順                                                   | 成り立ち                                     | 読み・意味                                                        | 組み立て                                       | 成り立ち                                | 読み・意味                                                      | 和語・漢語・外来語                              | 故事成語                            | 漢文・漢詩                                       |
| Ⅲ期 | 価値目標 | 受け継がれてきた「漢字文化」の魅力や価値を知り、自分を豊かにする。                    |                                          |                                                              |                                            |                                     |                                                            |                                        |                                 |                                             |
|    | 技能目標 |                                                      |                                          | Stage 3<br>○漢字と仮名を用いる日本語の特徴を理解し、感じたことや考えたことを表現するための文字や言葉を選ぶ。 |                                            | Stage 2<br>○二字・三字・四字以上の熟語の構成を、理解する。 | Stage 4<br>○同訓異字・同音異字の使い分けをする。                             | Stage 2<br>○和語・漢語・外来語・混種語を相手や場面に応じて選ぶ。 |                                 | Stage 2<br>○漢文、漢詩を歴史的背景を踏まえて読み、自分の生き方を振り返る。 |
|    | 態度目標 | 漢字の特質を理解し、表現に活用したり、ふれる機会を自ら求めたりする。                   |                                          |                                                              |                                            |                                     |                                                            |                                        |                                 |                                             |
| Ⅱ期 | 価値目標 | 「漢字文化」のよさや美しさ、漢字のもつ奥深さに気づく。                          |                                          |                                                              |                                            |                                     |                                                            |                                        |                                 |                                             |
|    | 技能目標 | Stage 2<br>○筆順の有効性を理解する。                             | Stage 2<br>○象形・指示・会意・形声・転注・仮借文字の分類を理解する。 | Stage 2<br>○漢字が日本に伝えられた背景を踏まえ、漢字の読みの多様性（音読み・訓読み）を理解する。       | Stage 2<br>○部首の名称と意味を知り、漢字の組み立てを理解する。      | Stage 1<br>○二字・三字の熟語の成り立ちを知る。       | Stage 3<br>○複数の読み方をする熟語を理解する。<br>Stage 2<br>○同訓異字・同音異字を知る。 | Stage 1<br>○和語・漢語・外来語の違いを知る。           | Stage 2<br>○故事成語の由来・意味・価値を理解する。 | Stage 1<br>○漢文・漢字を読み、昔の人のものの見方や考え方をを知る。     |
|    | 態度目標 | 先人のものの見方や考え方にふれ、興味・関心をもつ。                            |                                          |                                                              |                                            |                                     |                                                            |                                        |                                 |                                             |
| Ⅰ期 | 価値目標 | 漢字の成り立ちや意味を知り、漢字の文化を楽しむ。                             |                                          |                                                              |                                            |                                     |                                                            |                                        |                                 |                                             |
|    | 技能目標 | Stage 1<br>○筆順があることや「とめ・はね・はらい・おれ・まがり」等、基本的な学習用語を知る。 | Stage 1<br>○象形・指示・会意・形声文字の成り立ちを理解する。     | Stage 1<br>○同じ漢字のいろいろな読み方を知る。                                | Stage 1<br>○「へん・つくり・かんむり・あし・たれ」等、身近な部首を知る。 |                                     | Stage 1<br>○既習の漢字の熟語を知る。                                   |                                        | Stage 1<br>○身近な故事成語の由来・意味を知る。   |                                             |
|    | 態度目標 | 漢字を身近に感じ、漢字に興味・関心をもつ。                                |                                          |                                                              |                                            |                                     |                                                            |                                        |                                 |                                             |